

平成 22 年度
(2010 年度)

事業計画案

自 2010 年 7 月 1 日

至 2011 年 3 月 31 日

公益財団法人ユニジャパン

事業計画案

自 平成 22 年 7 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

財団事業の目的

本法人は、わが国の映像文化並びに映像産業の振興を通じて文化的で豊かな国民生活の実現を目指すとともに、海外に対してわが国の良好なイメージを発信し、国際友好と産業交流の増進を図ることにより、広く公益に寄与することを目的とする。（定款第 2 章第 3 条）

今年度事業の方針

1. 東京国際映画祭を通じて、映画・映像文化の国際交流の増進を図り、映画産業の活性化を促進するという方針の下、JAPAN 国際コンテンツフェスティバル 2010(コ・フェスタ)と連携をとり、海外からの主要ゲスト招聘強化を維持するとともに、エコロジーの視点から地球環境の保護を訴えることを映画祭の企画に取り込む。
2. 日本の映画・映像コンテンツの海外展開に対する支援事業により、我が国の映画・映像文化の国際化を促進する。
3. 公益財団法人としての本財団の将来像の確立に見合う、事業の公益性、社会的使命を追求する。

事業の内容

財団定款第 4 条に基づき以下の事業を行う。

1. 国際映画祭事業

- 東京国際映画祭の主催

2. コンテンツ国際振興支援事業

- 海外映画祭・映画賞出品支援事業
- 日本映画・アニメの海外展開支援事業
- 情報発信事業
- 調査研究事業

1 国際映画祭事業

{東京国際映画祭}

- 名 称： 第 23 回東京国際映画祭
- 主 催： 公益財団法人ユニジャパン（第 23 回東京国際映画祭実行委員会）
- 期 間： 平成 22 年 10 月 23 日(土)から 10 月 31 日(日)までの 9 日間
- 企 画： 自主企画部門、共催企画部門、提携企画部門
- 開 催 会 場： 六本木ヒルズ(港区)をメイン会場とし、他に都内各所の劇場・ホール・施設を使用
して開催
- 共 催： 経済産業省(マーケット部門) / 東京都(コンペティション部門) /
(予 定) 文化庁(映画人の視点)
- 後 援： 総務省 / 外務省 / 環境省 / 観光庁 / 財団法人 JKA
(予 定) 独立行政法人国際交流基金 / 独立行政法人日本貿易振興機構 / 港区
社団法人日本経済団体連合会 / 東京商工会議所
一般社団法人日本映画製作者連盟 / 一般社団法人映画産業団体連合会
社団法人外国映画輸入配給協会
モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)
全国興行生活衛生同業組合連合会 / 東京都興行生活衛生同業組合
財団法人角川文化振興財団 / 財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団
財団法人デジタルコンテンツ協会 / 社団法人デジタルメディア協会
社団法人日本映像ソフト協会 / 特定非営利活動法人映像産業振興機構
東京国立近代美術館フィルムセンター
- 補 助： 財団法人 JKA(競輪公益資金)
- 助 成： 独立行政法人日本芸術文化振興会(芸術文化振興基金)
- 協賛・協力： 団体及び民間企業各社 26 (予 定)

【主要上映企画】

(1) 「コンペティション部門」(共催：東京都)

本映画祭の主要部門として、映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際文化交流に寄与することを目的に、2010 年 1 月以降に完成した 35 ミリ長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備選考を経た 15 本(予定)を期間中上映する。各作品の上映後に、招聘したゲスト(作品関係者)による Q&A を行ない、観客との交流の輪を広げる。

国際映画製作者連盟の規約に従い、6 人(内、日本人 2 名)で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行ない、10 月 31 日の閉会式会場で東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀女優賞、最優秀男優賞、最優秀芸術貢献賞の 6 賞を発表し、東京サクラグランプリには 5 万米ドル、審査員特別賞には 2 万米ドルを賞金として贈る。併せて東京サクラグラ

ンプリ受賞作品には東京都知事から賞状とトロフィ - (麒麟像) が贈られる。

また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金 1 万米ドルが 1 作品に贈られる。

(2) **「特別招待作品部門」**

国内未公開の話題作品を 20 本(予定)上映する。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭の PR と観客動員に繋げる。

(3) **「アジアの風部門」**

世界の映画界で、最も活気のあるアジア圏の国や地域で製作された作品の中から優れた作品 25 本(予定)を選び上映する。上映作品の製作者や作品スタッフを招聘して、国際映像マーケットにも参加してもらい、日本の映像業界との文化交流をはかるとともに、アジア映画の産業の発展に繋げる。

上映作品の中から、アジア映画賞審査委員会により選ばれた 1 作品に対して「最優秀アジア映画賞」として賞金 1 万米ドルが贈られる。

(4) **「日本映画・ある視点部門」**

活況を増している日本映画を対象に、テーマ別にある角度から焦点を絞った選考を行ない、一般観客を始め、海外からのゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画。個性に溢れた多様性のある作品を 8 本(予定)上映する。

上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、賞状と賞金 100 万円が贈られる。

(5) **「ワールドシネマ」**

欧米の映画を中心に、他の国際映画祭で高い評価を受けた秀作や、有名監督の日本では未配給の作品など、世界で話題になっている新作の数々をいち早く紹介していく、洋画ファンにとって待望の企画。

(6) **「Natural TIFF」**

「エコロジー」や「自然と人間の共生」というテーマに合う優れた作品を上映する、第 21 回からの企画。本年度も、昨年以上に優れた作品を集めるべく、その詳細を検討中である。

なお、上記の全部門の上映作品を対象として、「エコロジー」や「自然と人間の共生」というテーマに合う、もっとも優れた作品に対して「TOYOTA Earth Grand Prix」を授ける。

【関連上映企画】

(1) **「第 23 回東京国際女性映画祭」** (主催 : 東京国際女性映画祭実行委員会)

東京国際映画祭と同時にスタートした「女性映画祭」も昨年までで 22 回を数えた。今年も世界各国の女性監督が、未来への誠実な願いを込めて取り組んだ作品を紹介する。

(2) **「ショートショートフィルム フェスティバル」** (主催 : ショートショートアジア実行委員会)

本年 6 月開催の「ショートショートフィルム フェスティバル 2010」の授賞作品を上映する。

期 日 : 平成 22 年 10 月下旬

会 場 : 東京都写真美術館 映像ホール

- (3) **「みなと上映会」** (共催 : 東京国際映画祭みなと委員会)
港区内の商店会、自治会、町会で結成された東京国際映画祭「みなと委員会」との共催企画。
子供から大人まで楽しめる作品の上映とイベントを企画している。
- (4) **「コリアン・シネマ・ウィーク 2010」** (主催 : 駐日韓国大使館 / 韓国文化院)
今年で 10 回目を迎えファンも年々増加している。今年も韓国映画を代表する作品の数々を上映する。
- (5) **「第 3 回したまちコメディ映画祭 in 台東」**
下町は多くの芸能人を輩出した町。今年も、浅草・上野を舞台に映画の上映と各種イベントで下町を盛り上げる。9 月 16 日(木) ~ 20 日(月)の 5 日間実施、雷門にレッドカーペット。
- (6) **「2010 東京・中国映画週間」**
(共催 : 中国国家広播電影電視総局電影管理局 / 日中友好映画祭実行委員会)
最新の中国映画 8 本(予定)を上映。豪華なゲストも魅力。10 月 23 日 ~ 29 日の 7 日間を予定。
- (7) **顕彰・助成事業**
東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラグランプリ、その他優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
アジアの風部門における優秀作品に対する顕彰(最優秀アジア映画賞)
日本映画・ある視点部門における優秀作品に対する顕彰
批評家育成プロジェクトの入賞者に対する顕彰
フィルムライブラリー活動に対する助成として、国立近代美術館フィルムセンターへ製作者の承認を得て、優秀作品のプリントや映画資料の寄贈。
- (8) **東京国際映画祭公式サイト(<http://www.tiff-jp.net/>)の運営**
映画祭に関する全情報の発信基地となる公式サイトであり、東京国際映画祭への作品応募の窓口となり、映画祭参加作品の紹介を行うなど、多目的に機能させていく。オープニング行事のグリーンカーペットのLIVE中継をはじめ、会期中のイベントの様態を動画で配信し、臨場感溢れる映画祭の情報を提供している。

【マーケット企画(TIFFCOM)】

名 称 TIFFCOM2010 Marketplace for Film & TV in Asia
主 催 経済産業省(METI)、公益財団法人ユニジャパン、日本映像振興株式会社
会 場 六本木ヒルズ 森タワー及びアカデミーヒルズ 40F&49F
期 間 平成 22 年 10 月 25 日(月) ~ 10 月 28 日(木) 9:00 ~ 18:00

関連イベント

TPG2010 (Tokyo Project Gathering)

Seminar @ TIFFCOM

連携企画

国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2010

出展対象

映画、テレビ、アニメーション、デジタルメディアコンテンツ、コミック、出版など

公式WEBサイト

<http://www.tiffcom.jp>

TIFFCOM2009 実績から

出展団体数(212)、来場登録者数(4,037)、登録国・地域数(47)

2 コンテンツ国際振興支援事業

財団定款第2章「目的と事業」の第4条に基づき以下の事業を、経済産業省、文化庁、観光庁からの受託事業、また国際交流基金、日本貿易振興機構との共同事業、財団の自主事業として行う。

1. 海外映画祭・映画賞出品支援事業

映画祭・映画賞出品支援

日本映画や日本の映画製作者が海外の映画祭・映画賞に参加するために必要な、字幕制作費、渡航費、宣材制作費を支援する。

日本映画情報ブース

海外の主要映画祭・映像マーケットにおいて、日本映画情報センターとなるブースを設置し、各国の映画祭関係者、ジャーナリストに対して情報提供サービスを行う。

DVD ライブラリー

来日する各国映画祭関係者が、新しい日本映画を視聴できる「DVD ライブラリー」を財団内、また国内外の映画祭・映像マーケット会場内に設置する。

ユニジャパン・ニュースレター

世界各地の映画祭エントリー情報や日本映画の出品・受賞情報を掲載したメールマガジンを隔週で発行、日本の映画製作者に配信する。

2. 日本映画・アニメの海外展開支援事業

日本映画・アニメ海外販売支援

上記日本映画情報ブースと連動し、海外の主要映像マーケットにおいて共同セールスブースを出展、日本映画・アニメなどコンテンツ事業者の海外セールス活動を支援する。

外国映画のロケーション誘致活動支援

ジャパン・フィルムコミッションと連携し、誘致を促進するためのインセンティブを立案すると共に、外国映画の日本でのロケーション撮影の誘致活動を支援する。

国際共同製作支援

国際共同製作を目指す日本のコンテンツ製作者と海外、特にアジア各国のコンテンツ製作者とのマッチングやネットワーク作りを支援する。

海外ネットワーク構築

上記支援事業を推進するため、世界各国、特にアジア各国のコンテンツ振興機関とのネットワーク作りを強化し、国際共同製作協定締結に向けて環境整備を行う。

3. 情報発信事業

海外向け日本映画データベース「JFDB」

日本映画・アニメの作品情報、日本の映像関連企業・団体のコンタクト情報を、日英バイリンガルでデータベース化する。

海外向け日本映画年鑑「Japanese Film」

平成 22 年に劇場公開される代表的な日本映画・アニメの紹介と、日本映画産業統計、映像関連企業及び団体のコンタクト先を掲載、主要映画祭・映像マーケットにて配布する。

海外向け日本映画新作カタログ「New Cinema from Japan」

10 月の TIFFCOM、AFM に合わせて発行し、最新の日本映画・アニメの情報を有料で掲載、主要映画祭・映像マーケットにて配布する。

海外向け日本コンテンツ産業公式サイト運営

日本と海外のコンテンツ事業者を結ぶ情報交換とオンライン・マッチングの場として、また日本のコンテンツ海外発信メディアとして、海外向け日本コンテンツ産業公式サイトを運営する。

4. 調査研究事業

海外情報収集拠点の設置

日本映画・アニメの国際ビジネス支援のため、各国コンテンツ産業の情報収集拠点を海外の主要地域に設置、日本のコンテンツ事業者に情報提供を行う。

日本のコンテンツ産業情報提供

日本のコンテンツ事業者との共同事業を望む海外のコンテンツ事業者に対して、日本のコンテンツ産業情報を収集・提供する。

人材育成事業（海外留学支援とぴあフィルムフェスティバルの共催）

国際ビジネス・プロデューサー人材の育成を目的として、米国長期留学支援、海外短期研修、国内研修、プロデューサーカリキュラム作成等の業務を行う。また、日本映画・アニメにおける若手クリエイター育成を目的として、「ぴあフィルムフェスティバル」を共催し、新しい才能の発掘と映像制作支援、国際ネットワーク構築業務を行う。

シンポジウム、セミナーの開催

東京国際映画祭に会期を合わせて、以下のシンポジウム事業を実施する。

1)「第 7 回文化庁映画週間」

文化庁映画賞の贈呈式と記念上映会、地域と映画をテーマとしたセミナーを行う。

2)「ユニジャパン・エンタテインメント・フォーラム」

TIFFCOM と連携し、国際的なコンテンツ事業をテーマとした連続セミナーを行う。

以上